

モニタリング調査頻度（案）

管理署名	保護林名	モニタリング頻度	前回実施	今後予定	理由
愛媛署・嶺北署	石鎚山系 森林生態系保護林	5年	H24 H25	H29 H30	・石鎚山系でも近年シカの被害が出ている。
徳島署	剣山生物群集保護林	5年	H24 設定	H29	・剣山周辺に生息しているツキノワグマの行動圏に含まれる可能性がある。 ・シカの被害がある。
	鎗戸シコクシラベ(遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H24 H24 設定	H29	・ニホンジカの食害の影響で、今後、シコクシラベ林が衰退していく可能性がある。 ・シコクシラベは徳島県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。
愛媛署	小田深山ブナ(遺伝資源) 希少個体群保護林	10年	H27	H37	・過去の調査から大きな変動がなかった。
	滑床山ウラジロガシ等(遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H26	H31	・ウラジロガシの稚幼樹が確認されている。 ・シカの被害もある。
四万十署	小筋畝山コウヤマキ(遺伝資源) 希少個体群保存林	10年	H26	H36	・コウヤマキの稚幼樹や実生の生育が確認されているものの、過去の調査から大きな変動がなかった。
	梶ヶ谷山モミ(遺伝資源) 希少個体群保存林	5年	H26	H31	・シカの被害が出ている。
	古屋山大道マツ(遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H26	H31	・遷移の途中段階にある。 ・病害虫被害の恐れがある。
	佐田山ヤッコソウ(シイ遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H26	H31	・草本性のヤッコソウは継続的なモニタリングが必要。
	弦場山ウバメガシ(遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H26	H31	・幼稚樹が育っておらず、攪乱による更新を検討する必要がある。
	鷹取山生物群集保護林	5年	H25	H30	・ヤイロチョウ(高知県レッドデータブック:絶滅危惧ⅠA)の生息が確認された。
嶺北署	白髪山天然ヒノキ(遺伝資源) 希少個体群保護林	5年	H24	H29	・シカによる食痕や樹木への剥皮など被害が広く見られる。

管理署名	保護林名	モニタリング頻度	前回実施	今後予定	理由
高知中部署	石立山生物群集保護林	5年	H25	H30	・シカ被害の影響が顕著にある。 ・5科6種の希少種(県指定の絶滅危惧種等)が確認された。(メグスリノキ、ヨコグラノキ、ユキモチソウ、ヤシヤビシヤク、マメヅタラン、ベニカヤラン)
	西熊山生物群集保護林	5年	H25	H30	・シカ被害の影響が顕著にある。
安芸署	千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H27	H32	・千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林の登山道沿いでヤナセスギの枯損木が見られることから、次回調査は前回調査の5年後に行い、全体的な枯損状況を把握した上で、頻度の検討を行う。
	千本山人工ヤナセスギ希少個体群保護林	5年	H27	H32	
	雁巻山ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H27	H32	
	西ノ川山トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H28	H33	・日本での生息地は紀伊半島と高知県に限られる。 ・IUCNのレッドリスト2000年版で危急種とされ、高知県のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類とされている。 ・後継樹がなく、更新が困難になっている可能性がある。
	魚梁瀬トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H28	H33	
	安田川山トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H28	H33	
	横荒山モミ・ツガ(遺伝資源)希少個体群保護林	5年	H27	H32	

※ 平成28年年度第3回保護林管理委員会(平成29年2月23日)において、千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林、千本山人工ヤナセスギ希少個体群保護林、雁巻山ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林以外の保護林については、審議済み。